

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520063

研究課題名（和文） キリスト教の現地適応と儀礼の変容－南インド・カトリック教会とグローカリゼーション

研究課題名（英文） Inculturation of Christianity and the Transformation of Rituals - Catholic Church in South India and its Glocalization

研究代表者

岡光 信子（OKAMITSU NOBUKO）

東北大学・大学院文学研究科・専門研究員

研究者番号：50447116

研究成果の概要（和文）：

カトリック教会の見解によれば、教会の交わりと一致の要としての「普遍教会」という概念が立てられる一方、実際に宣教を行うための「地方教会」が存在するという。地方教会は、普遍教会の理念を内在させつつ、宣教地における固有の伝統や文化を反映させた宗教活動を行っているのである。このようにカトリック教会は、普遍的な宗教として伝播を遂げていく過程で、不可避免的にローカル化した諸要素を採り込むことになる。いわば「グローカリゼーション」という現象は、宗教の拡大と表裏一体のものと捉えることができる。

本研究は、宗教の「グローカリゼーション」の具体的対象地域として、ヒンドゥー教が圧倒的に優勢な環境にあるインドを取り上げ、そこにおけるキリスト教側の適応・対処とそれに必然的に伴うキリスト教の変容の諸相について、主として宗教儀礼の方面から実証的に解明するものである。

研究成果の概要（英文）：

The theology of the Catholic Church has insisted that it is one single reality but represented by two inseparable and complementary dimensions - the Universal Church and the Local Churches. The Universal Church, transcends immediate cultural and spatial realities. So, the Universal Church symbolizes the unity of all the Catholic Christians and of the Local Churches. The Local Church concretizes culturally and historically in time and space the Universal Church. Both the Universal and the Local Churches pursue the social and religious mission as commanded by Christ. The two-dimensional aspects of the neologism 'Glocalization' could be appropriately used to this discussion. This study focuses on India, and seeks to understand how a Local Church, in a concrete locus, inculturates itself or adapts culturally to its predominantly Hindu surroundings, particularly in the area of religious rituals and practices.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：キリスト教、インド、現地文化、儀礼

1. 研究開始当初の背景

普遍主義を標榜する宗教には、概して理念的な面と実践的な面という2つの側面があり、それらの中に葛藤や緊張関係が生ずる事例がしばしば見られる。たとえば、一つの宗教が異なる文化圏に伝播していく過程(グローカリゼーション)には、本来の教義や儀礼が現地の文化的・社会的文脈に適応するかたちに変容する現象(ローカル化)が観察されることがある。その場合に、その宗教が標榜する普遍主義的理念と地域適応の必要性との間に葛藤が生じるようになるのである。このような普遍主義的宗教の地域適応に関わる問題を「グローカリゼーション」という枠組みで捉えようとする視座も提起されつつある。しかしながら、この視点に立った、地域の事情を踏まえた詳細な研究蓄積は無いに等しく、具体例による検証を欠いているのが実情である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、宗教が現地適応する現象を「グローカリゼーション」という概念で捉え、南インド・カトリック教会の一教区を事例として、カトリック教会がその普遍性を維持しながら地域文化を取り入れることで現地適応するという現象を「インカルチュレーション」という概念を援用しながら、宗教のグローカリゼーションについて考察するものである。

カトリック教会は、教会の交わりと一致の要としての「普遍教会」という概念が立てられる一方で、実際に宣教を行うための「地方教会」が存在すると主張する。地方教会は、普遍教会の理念を内在させつつ、宣教地にお

ける固有の伝統や文化を反映させた宗教活動を行う。本研究は、宗教の「グローカル化」の具体的対象地域として、ヒन्दゥー教が圧倒的に優勢な環境にあるインドを取り上げ、そこにおけるキリスト教側の適応・対処とそれに必然的に伴うキリスト教の変容の諸相について、主として宗教儀礼の方面から実証的に解明するものである。

3. 研究の方法

本研究は、インドのカトリック教会を事例として、南インド最南端の一教区を取り上げ、宗教のグローカリゼーションに伴う普遍性の維持と現地適応の狭間に生起する様々な摩擦や葛藤を「インカルチュレーション」という概念も援用しつつ調査・分析するものである。教会の公的主張・宣教政策と個別地域の実態とを比較対照し、両面からの詳細な考察が加えられることになる。

本研究は、(A) 宣教政策およびローカル化に対するカトリック教会側の公的見解を文献資料に基づいて整理すること、(B) インドで実践されるカトリック教会の宗教儀礼の事細かな実例を最大限収集すること、という2つの基礎作業に万全を期すことが研究目標達成の基本要件となる。どちらか一方が不全では研究全体は体をなさない。

研究方法として、調査地である南インドの教区で見られる宗教儀礼を集中的に調査し、儀礼の中で維持されているカトリック教会の定める必要儀礼と関連事項に関するデータを収集し、バチカンの公式文書にあるインカルチュレーションの記載を参照しながら、宗教のグローカリゼーションに関する分析を行う。現地調査で得られた知見を利用して、

宗教のグローカリゼーションについてさらに考察を不可欠な要素および現地的な要素を具体的に検証する。

4. 研究成果

研究代表者は、研究課題を追究するためにインドに渡航し、現地のキリスト教の状況を参与観察し、それぞれの地域のカトリック教会の現地でしか入手できない文献を収集した。海外調査により、現地でしか入手できない貴重な資料を収集することができた。

これらの資料は、カトリック教会が公式に出す声明を参照にしながら検証することで、本研究の課題である宗教の「グローカリゼーション」に付随する様々な問題を地域の歴史や文化的な背景を交えて浮き彫りにすることができた。

現地のカトリック教会における参与観察は、各教区で実践される宗教儀礼を具体的に記録することができ、現地適応された宗教儀礼を人々がどのように受け入れているのかを具体的に観察することができた。

現地調査により、カトリック教会の儀礼が、現地文化の要素を採り入れ、どのようなかたちで举行されているのかを映像に記録することができた。これにより現地文化の要素がキリスト教の儀礼に導入される際、キリスト教の文脈で新たな意味づけを加えられていることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

①岡光信子「インドにおける伝統医療の復興と可能性—宗教組織の村落における活動を事例に—」『東方』査読有、2013 年、1-18

頁

②岡光信子・山下博司「グローバル化のなかで変容する社会—混成化・越境・均質化—」『地域研究』査読有、13 号、2013 年、359-368 頁

③岡光信子「伝統医療と社会福祉—インドの—宗教組織の試みを事例に」『宗教研究』査読無 86 (4)、2013 年、359-368 頁

④岡光信子・山下博司「シンガポールのヒンドゥー寺院における女神祭祀とインド叙事詩—火渡り—の儀礼シークエンスを中心に—」『東方』査読有、27 号、2012 年、193-223 頁

⑤岡光信子「インドにおける非政府組織の福祉活動と社会貢献」『ヨーロッパ文化史研究』査読有 13 号、2012 年、247-283 頁

⑥岡光信子「宗教を超えた社会福祉—イスラム社会におけるキリスト教系母子シェルター—」『東方』査読有、27 号、2012 年、124-150 頁

⑦岡光信子『東北学院大学オープン・リサーチ・センター「ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化の変容」研究プロジェクト報告書』査読無、V、2012 年、155-159 頁

⑧岡光信子「カトリックの宗教儀礼のもつ社会的役割：初聖体の事例をもとに」『宗教研究』査読無 85 (4)、2012 年、1036-1037 頁

⑨岡光信子「宗教儀礼の举行に伴う共同体の役割と社会的紐帯—南インド・カトリック教会の秘跡（初聖体）を事例として—」

『東方』査読有、27 号、2011 年、117-133 頁

⑩岡光信子・山下博司「インド民話から現代オペラヘーション・アダムズ作『フラワリング・ツリー』のエコロジー的構想などをめぐって—」『東方』査読有、27 号、2011 年、164-180 頁

⑪Hiroshi YAMASHITA & Nobuko OKAMITSU, "Indian Film in

Transition: Recent Developments and Transformations of Commercial Cinema under Globalization”, *Proceedings of International Symposium "Media and Power in Contemporary South Asia"*, 査読無, 2011, pp.1-14

⑫岡光信子「南インド・一教区におけるカトリック教会の宗教儀礼に伴う宗教性と社会性」『日本南アジア学会 第23回全国大会 報告要旨集』査読有、59巻(vol.703)、2011年、9～11頁

⑬岡光信子「キリスト教とグローカリゼーション」査読無『宗教研究』83(4)、2010年、1482-1483頁

⑭岡光信子・山下博司「グローバル化の中のインド映像・メディア産業—人材育成とメディア教育の現状にも触れて—」『NIHU プログラム 現代インド地域研究国内全体集会『社会変容とメディア：グローバル・インドの諸相 要旨集』査読無、2010年、8-9頁、<http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/worpress/wp-content/uploads/2010/11/%E5%85%A8%E4%BD%93%E9%9B%86%E4%BC%9A%E8%A6%81%E6%97%A8%E9%9B%86-%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8-2.pdf>

⑮岡光信子・山下博司「現代タイにおける伝統舞台劇「ラーマキエン」と文化行政—バンコクとナコーン・シー・タンマラートの文化省教育機関での調査をもとに—」『東方』査読有、24号、2009年、161-173頁

⑯岡光信子「インドのカトリック教会の社会貢献活動」査読無『宗教研究』82(4)、2009年、1196-1198頁

⑰岡光信子「経済開放政策以降のインドにおける中間層の増加と化粧品の消費動向の変化に関する研究」『コスメトロジー研究報告』査読無、17号、2009年、129-132頁

⑱岡光信子「インドの化粧品の昨今」『コスメトロジー研究報告』査読無、17号、2009

年、160頁(全1頁)

[学会発表](計8件)

①岡光信子「伝統医療と社会福祉 — インドの一宗教組織の試みを事例に —」日本宗教学会、2012年9月8日、皇學館大学

②岡光信子「インドの伝統医療と現代 — タミルナードゥ州のナーットゥ・マルンドゥ(Nattu Maruntu, Local Medicine)を中心に —」新学術領域研究会「生活空間、場の記憶、ジェンダー、探偵小説—ユーラシア比較文化の試み」2012年3月3日、北海道大学

③Hiroshi YAMASHITA & Nobuko OKAMITSU, "Indian Filmdom in Transition: Recent Developments and Transformations of Commercial Cinema under Globalization", International Symposium "Media and Power in Contemporary South Asia". 2011年12月18日、国立民族学博物館

④岡光信子「カトリックの宗教儀礼のもつ社会的役割—初聖体の事例をもとに—」日本宗教学会、2011年9月4日、関西学院大学

⑤岡光信子「現代インドにおけるキリスト教宣教の諸相」東北学院大学ヨーロッパ文化研究所公開講座『インドの宗教事情—宗教多元主義国家の光と影—』2011年6月14日、東北学院大学

⑥岡光信子・山下博司「グローバル化の中のインド映像・メディア産業—人材育成とメディア教育の現状にも触れて—」現代インド地域研究、2010年12月4日、東京外国語大学

⑦岡光信子「南インド・一教区におけるカトリック教会の宗教儀礼に伴う宗教性と社会性」日本南アジア学会、2010年10月3日、法政大学

⑧岡光信子「キリスト教とグローカリゼーション—南インドを事例にして」日本宗教学会、

2009年9月12日、京都大学

〔図書〕(計3件)

①岡光信子「ヒンドゥー教と社会福祉」櫻井義秀、濱田陽編、『アジアの宗教とソーシャル・キャピタル』2012年、明石書店、239-258頁

②岡光信子「インドネシアにおけるカトリック女子修道会の母子シェルター」『社会貢献する宗教』社会思想社、2009年、78-79頁

③岡光信子・山下博司『アジアのハリウッド—グローバル化とインド映画』東京堂出版、2009年、1-345頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.cosmetology.or.jp/2009/2009ho1.htm>

<http://yamazakispice-promotionfdn.jp/summary/summary122.pdf>

<http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/wordpress/wp-content/uploads/2010/11/全体集会要旨集-公開用-2.pdf>

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/society/20111217-18>

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/group_06/activities/index.html#

20120303

<http://shukyo-shakaikoken.seesaa.net/category/11435490-1.html>

<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/publish/?cat=4>

<http://www.toho.or.jp/toho.php?pg=4#>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡光 信子 (OKAMITSU NOBUKO)

東北大学・大学院文学研究科・専門研究員
研究者番号: 50447116

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: